

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 問合せ：03-6684-6692

2月10日（土） 死者は生きているー日本仏教の特徴
峯岸正典 先生 長楽寺住職

2月24日（土） この世とあの世
佐藤 研 先生 立教大学名誉教授

3月10日（土） 震旦の小釈迦と呼ばれた人
池田魯参 先生 駒澤大学総長

3月24日（土） 二つの浄土ー化土と浄土
長谷正當 先生 京都大学名誉教授

4月14日（土） 宗教と労働ーはじめに
菅原伸郎 在家仏教協会理事長

4月28日（土） 仏教と文学ー「たましい」論の現在
竹内 整 先生 鎌倉女子大学教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

3月16日（金） 道昭 こんな人がいた！
西山 厚 先生 帝塚山大学文化創造学科教授

5月18日（金） 往生伝にみる<笑み>
池見澄隆 先生 佛教大学名誉教授

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

2月21日（水） 現代仏教の世界観
立川武蔵 先生 国立民族博物館名誉教授

いのち尊し

奈良先生と己事究明

辰川 敬三
（在家仏教協会会員）

第10号

いのち尊し

平成30年
2月1日

一般社団法人
在家仏教協会

〒101-0062

東京都千代田区
神田駿河台3-3
五明館ビル202号

TEL
03-6684-6692

FAX
03-6684-6709

常務理事として在家仏教協会の
仕事にかかわり、多くの講師の先
生方の知遇を得た。サラリーマン
時代とは全く別世界の方々と交流
をさせていただいた貴重な体験は、
何物にも代えがたい幸せなことだ
であった。本稿では、昨年十二月に
亡くなられた元駒沢大学総長、本
協会の理事も務められた奈良康明
先生の思い出を書かせていただき
たい。

*

十五年ほど前、築地本願寺での
集まりのことだ。たまたま奈良先
生と並んで居合わせたので、臆面
もなく不躰に「先生、仏教の本質
とは何ですか？ 一番大事なことは
何ですか？」なる質問をした。
もとより浅学菲才、協会の仕事を
しながらも不勉強で、滅多にこの

種の質問をしないようにしていた
のだが、この時、どういう風の吹
き回しか、ふっとこの問いを発し
したのである。

先生は即座に「己事究明です」
と答えてくださった。「己事究明」
「己事究明」……。反復唱えるこ
と数回、その場の会話は終わった。
後日、この話について先生と語つ
たことは一度もないが、爾来、何
度も何度も心の中で「己事究明」
とつぶやき、足りぬ頭で思考を巡
らせていた。

そしてある時、「己が事を究め
明かす」ということは、これはつ
まり「哲学だな」というところに
行きついた。そうか。東洋で起こつ
た、インドで始まった哲学である
から印度哲学なのだ、と自分なり
の解釈をしている次第である。

私はいわゆる俗物であって、こ
の質問をする前からも新年には初
詣で神社仏閣に参詣し、お賽銭を
あげ、家族の安全・息災を願う、
いわゆる現世利益を願うことは毎
年行っている。これは、在家仏教
協会の四つの信条の三番目にある
「呪術らしきものは一切排除する
こと」と厳密に言えば抵触するで
あろう。気になっていたことであつ
た。

*

しかし、己事究明とは別に、五
木寛之著『百寺巡礼』第八巻（講
談社文庫）の山陰・山陽編に登場
する一畑薬師（島根県出雲市）の
項に以下のような文がある。眼病
の願い事にご利益があることで有
名な一畑薬師のご住職が、五木氏
の質問に対して「現世利益という
のは一つの入口です」云々のこと
が書かれているのだ。

さらに一休禅師の詠んだ「わけ
のぼるふもとの道はおほけれど同
じ高嶺の月をみるかな」という歌
も併せて紹介されている。己事究

明の覚束ない俗人間の自分は、奈
良先生には申し訳ないが、この文
章を読んで随分と気が楽になった
ものである。はてさて、この先ど
んな月を眺めることになるのであ
ろうか。

*

最後に、奈良先生のご趣味の広
さについて、一つのエピソードを
付け加えさせていただきたい。前
号の「いのち尊し」で中村伊都子
様が書かれた一文にあるように、
先生のお供をして山口市にある
「中原中也記念館」を見学した。
その後、その近くにあるステンド
グラスでも有名な「山口サビエ
ル記念聖堂」にも先生をご案内し
た。先生は熱心に聖堂内をご覧に
なった後に「これで今度の旅の目
的はすべて果たしました」とおっ
しゃった。実は奈良先生はステン
ドグラスにも深いご興味とご造詣
をお持ちだったのである。

その先生の温顔に接することも
もはや不可能になった。末筆なが
ら、謹んで奈良康明先生のご冥福
をお祈り申し上げます。

合掌

この一冊

『アジア仏教美術論集IIシリーズ 全十二巻』

浅原 富士夫
(在家仏教協会会員)

「この一冊」という題名のもとにシリーズ嚆矢たる『アジア仏教美術論集 中央アジアI ガンダーラ〜東西トルキスタン』（中央公論美術出版刊）のみならず、壮大なシリーズ『アジア仏教美術論集（全十二巻）』について言及することをご覧願いたい。

採り上げた動機は、我々がこれから到来する未来に進むにあたり、「どこから来たのか」「どのように来たのか」を問うことが有益であると考える故である。仏教にかわりの深い美術を時への探求たる歴史、場への探求たる地理という二つの側面で学ぶことにより、

仏教が新たな様相で浮かび上がってくるのではないかと思惟した次第である。

そのような思いを潜在的に感じていた折りにシリーズ刊行の報に接し、いたく感動してしまった。

しかし、まだ、二巻が刊行されたに過ぎない。既にご存じの方もおられるだろうし、筆者よりもこの方面を知悉されている方もあろう中で、シリーズについての情報を他の人にも発信したいとの思いが嵩じて、蛮勇をふるう思いで拙文を寄稿することにした。

*

釈尊の教えに端を発する仏教が、広大無辺なアジアの空間に、長い年月をかけて伝播したことに感慨は尽きない。それぞれの国それぞれの時代に応じて、さまざまな思いを籠めて暮らす人々の信仰が培われた。そして、その信仰は、仏教を題材とする彫刻・絵画・工芸・建築などを含む仏教美術として昇華していったのではないか。今回のシリーズは、宗教・芸術的アプローチだけではなく社会・政治など様々な視角から専門家が論じる方向で編纂されている。

*

シリーズ最初の刊行である『中央アジアIガンダーラ〜東西トルキスタン』は「Iガンダーラ、IIアフガニスタン・西トルキスタン、III中国新疆、IV中央アジアの交流」という四部組成である。この巻のみで六百頁弱、執筆者が二十名弱

に達する重厚な構成である。さまざまな専門家、俯瞰的な見方あり、近接的な見方ありで、相互補完的に立体的視野の構築を図ろうとしている。

日本人に憧憬を抱かせる地域たるシルクロードの諸国が対象となっていて、最近、中国が打ち出した「一带一路の帯（シルクロード経済ベルト）」と重なる地域である。本巻の最初にガンダーラの仏像彫刻が登場する。インドに生まれた仏教がガンダーラでギリシア文明と遭遇し仏像が生み出されたステージである。仏像は、やがて中国を経て日本に伝わり、我々日本人が尊崇の対象としている仏像群として我々の目に触れることとなる。中国新疆からトルキスタン諸国の各地の奥深い論究や中央アジアの

在家仏教協会 四つの信条

- 一、釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならないと信じていること。
- 三、呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

交流の様など興味は尽きない。

*

シリーズでは、アジアを南・東南・東と分けて合計十二巻として刊行の予定。南アジアではインド、中央アジアではガンダーラ等のほかチベット、東南アジアではタイ・インドネシア等、東アジアでは中国・朝鮮半島が論じられる。日本は東アジアの中の一巻で「アジアの中の日本」として考察される。アジアという視点で日本仏教美術を捉えることは非常に価値あることと思われる。

仏教が日本に伝来して千五百年弱、先哲の教えを噛みしめるとともに、仏教美術を広く深く享受する縁（よすが）となりうるこのシリーズの完結を心から待ち望みつつ攔筆したい。

在家仏教通信

連続講演会は二本立て

東京会場では、四月からの連続講演会を二本立てとします。それぞれ次のような趣旨ですので、ふるってご参加ください。いずれも会場は中野サンプラザです。

◇シリーズ「宗教と労働」

在家仏教協会は、職業や家庭を持つて日常を送る在家者たちの団体です。会員の皆さんの多くは、日々自分のため、家族のため、社会のために働いてきました。では、そのように働いていては、宗教を学ぶことはできないのでしょうか。台所や田んぼ、工場や会社で働くことは宗教生活と矛盾するのでしょうか。

しかし、過去には「日々、額に汗して働くことこそが宗教生活だ」と語った先人もおられました。そこで、働くことと宗教生活の両立を模索してみたく思います。働き過ぎや働き方改革などが話題にもなっています。働くことの意味を改めて探ってまいります。講師には、加藤みち子（東方学

院講師）、深井智朗（東洋英和女学院副院長）、ケネス田中（武蔵野大学教授）、田上太秀（駒澤大学名誉教授）、阿満利磨（明治学院大学名誉教授）、本多弘之（親鸞仏教センター所長）ほかの諸先生にお願いしております。

◇シリーズ「仏教と文学」

一昨年の講演会では、「万葉集」や漱石の「こころ」を基盤にある仏教思想について学びました。今回はその続編として、古事記、万葉集、松尾芭蕉、良寛、本居宣長、平家物語など、日本の古典文学を取り上げていきます。

講師には、伊藤益（筑波大学教授）、瀬間正之（上智大学教授）、鉄野昌弘（東京大学教授）、清登典子（筑波大学教授）、中野東禅（龍宝寺住職）、樋口達郎（筑波大学特任研究員）ほかの諸先生を予定しています。

協会ホームページに仏教研究を新設

協会ホームページの図書室のコーナーに『仏教研究』のページを新設し、第一号として、協会第三代理事長武藤義一先生の『自然科学

と佛教』を掲載しました。一九五〇年という協会誕生前夜の時代に、既に現代科学と仏教の共通性を見抜き、両者があい近づき同じ真理探求の道を歩むべきことを唱えておられます。まさに「碩学の慧眼」と言うべき貴重な文献です。

これから何回かに分けてホームページに掲載する予定ですので、ご興味のある方は是非ご一読いただければと存じます。

ホームページの図書室のコーナーは次のような構成となります。

◇加藤辨三郎のページ

加藤辨三郎の著作やエッセイをお届けします。

◇在家佛教アーカイブス

「在家佛教」バックナンバーより、講演会のテーマに関連した記事や講師の先生方の過去の講演録を掲載します。

◇仏教研究

皆様が興味を待たれるテーマを取り上げ、「在家佛教」、「大法輪」バックナンバーなどから掲載いたします。今回は「仏教と自然科学」を取り上げました。

「このち尊し」投稿規程

◇随想「仏教と私」（八百字まで、または千五百字まで）
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。
◇コラム「この一冊」（八百字以内）
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は〒151-0064 東京都渋谷区上原3-3-216 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールは info@zaikebukkyo.com